

2009年 富士通マイクロエレクトロニクスグループの環境月間の取り組み

富士通マイクロエレクトロニクスグループでは、6月の環境月間に社外講師による環境講演会や清掃活動など、さまざまな行事を開催しました。その中から、「緑のカーテンプロジェクト」「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」「環境講演会」について報告します。

緑のカーテンプロジェクト

緑のカーテンで涼しく おいしくエコ

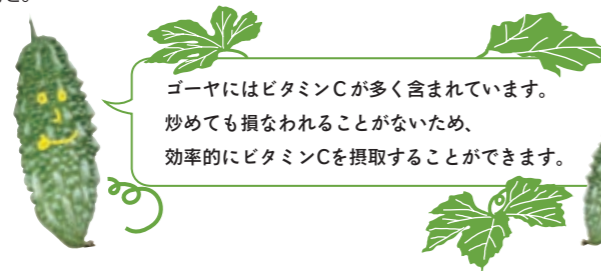
アサガオやヘチマ、ゴーヤ（ニガウリ）などのツル性植物で作った天然のカーテンは、夏の強い日差しを遮り、室内の温度を下げる効果があるとされます。また、野菜を収穫することもでき、とても楽しいカーテンでもあります。

今年、2つの事業所が緑のカーテン作りに挑戦しました。

三重工場

三重工場では、ツルを這わせるネットやプランター、杭などのすべてのツールを廃棄物から再利用して、「緑のカーテン」作りをしました。肥料も食堂から出される生ごみから作った有機肥料を使い、「完全無農薬」のゴーヤを育てました。種から育てたゴーヤも夏には大きく成長し、社員食堂で提供されるまでになりました。

また、ゴーヤ、アサガオ、ヘチマの種を社員に無料配布して、家庭でも緑のカーテン作りに取り組んでもらいました。



富士通VLSI 本社（愛知県春日井市）



緑のカーテン作りは、富士通VLSIでも廃棄物を再利用して行っています。プランターには廃棄された照明器具の笠を、プランター底の保水材には空調機の廃棄フィルターを活用しています。ツルを這わせるネットは、海苔の養殖に使用された物を格安で購入しました。

また、ここでも食堂から出される生ごみから作った有機肥料でゴーヤを育てました。ゴーヤは成長が早く、種を蒔いてから、わずか75日で収穫することができました。ゴーヤは、緑のカーテン作りを手伝ってくれたメンバーに配布しただけでなく、社内の通用口にカゴを設置して希望者にも配れるほどに収穫することができました。8月には社員食堂でもゴーヤ料理が登場しました。

CO₂削減/ライトダウンキャンペーン

灯りを消して地球温暖化問題を考える

「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」は、環境省が、2003年より地球温暖化防止のためライトアップ施設の消灯を呼び掛け、毎年夏至の日を中心に行っており、今年も6月20日(土)から7月7日(火)までの間に実施されました。

これはライトアップに馴れた日常生活の中、電気を消すことでいかに照明を使用しているかを実感し、地球温暖化問題について考えてもらうことを目的としたキャンペーンイベントです。

6月21日(日)を「ブラックイルミネーション2009」、最終日の7月7日(火)を「セタライトダウン」として、夜8時から10時までの2時間、全国のライトアップ施設等を一齐に消灯しようという呼び掛けに、富士通マイクロエレクトロニクスグループでも各地の事業所がライトダウンを行いました。

ライトダウン実施日

6月21日(日)：ブラックイルミネーション(夜8時～10時)

7月7日(火)：セタライトダウン(夜8時～10時)

オフィスフロアや廊下、駐車場や建屋周りなどを消灯することで、この期間中の富士通マイクロエレクトロニクスグループの消費電力削減総量は、66.7kwhにもなりました。今後も継続してこの活動を推進していきます。

消費電力削減内訳

| | |
|-----------------------|---------|
| 富士通マイクロエレクトロニクス | |
| 岩手工場 | 4kwh |
| 三重工場 | 21kwh |
| あきる野テクノロジーセンター | 24kwh |
| 富士通インテグレートドマイクロテクノロジー | |
| 会津工場 | 1.2kwh |
| 宮城工場 | 9.3kwh |
| 九州工場 | 7.2kwh |
| 合計 | 66.7kwh |



通常のライトアップ



ライトダウン

66.7kwh削減しました

2009年の「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」～コンセプトは「あかりを消して大切なものを見つけよう。」～

あかりを消して、大切なものを見つけよう。

夜空に瞬く星、木々や虫の奏でる音。頬をなでる風、季節が運ぶ香。地球には、私たちが感じられる、ステキなことがたくさんあります。今夜、あかりを消して、地球の声にそっと耳を澄ませてみませんか。



環境の日 環境月間とは

6月5日は環境の日。これは、1972年6月5日にストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」(平成5年)で「環境の日」を定めています。また環境庁の主唱により、平成3年度から6月の1ヵ月間を「環境月間」(昭和48年度～平成2年度までは、6月5日を初日とする「環境週間」)とし、全国でさまざまな行事が行われています。世界各国でも、環境保全の重要性を認識し行動の契機とするため、この日はさまざまな行事が行われています。

環境講演会

スターバックス様から学んだ CSR
〈新宿オフィス〉

6月の環境月間に、新宿オフィスの社員を対象とした環境講演会を開催しました。講師には、スターバックス コーヒー ジャパン株式会社様より、CSR 担当マネージャーの松本しのぶ氏にお越しいただきました。多くの人に親しまれるスターバックスのコーヒーにどのような思いが込められているのか、じっくり伺いました。



スターバックスコーヒージャパン株式会社
CSR 担当マネージャー 松本しのぶ氏

一杯のコーヒーを通じた社会貢献

本日お楽しみいただいているコーヒーは、ムアン ジャイ ブレンド。タイ北部の山岳民族の言葉で「心からの幸せ」という意味です——

松本氏のそんな優しい言葉から始まったこの講演会。会場には約 60 名の社員がマイカップを持って集まり、「心からの幸せ」という意味のコーヒーをいただきながら、穏やかな気持ちでお話を伺いました。講演の内容は、「環境への取り組み」「コーヒー生産地への支援」「コミュニティへの貢献」の 3 本柱。店舗でのタンブラー販売、店内マグカップの使用など、お客様と一体となった環境への取り組みに加えて、コーヒー生産農家からのプレミアム価格での購入や技術支援などのコーヒー生産地支援、そして子どもたちへの絵本の読み聞かせなど、店舗ごとに行われている地域コミュニティへの貢献。「環境」という枠を飛び越えたさまざまな事例紹介を通して CSR の世界に誘いました。



講演会の様子

できる人ができることを

スターバックス様の CSR 活動は、推進部門が社員に無理やり参加を求めることは避けて、社員の活動のきっかけをお膳立てしながら、手を挙げた人に気持ちよく活動してもらうスタイルをとっているそうです。当日紹介いただいたさまざまな活動には、それぞれ多くの社員が参画しており、活発な CSR 活動が行われているようでした。コーヒーの香ばしい香りに包まれた会場で、ゆとりを提供する企業ならではの自然な活動に、聴講者の心が引き込まれた講演会となりました。

* CSR: corporate social responsibility. 「企業の社会的責任」のこと。

聴講した社員の声



フェアトレード、食料バンク、メイク・ア・ウィッシュ・プログラムなど、私が素晴らしいと思う活動のすべてに参加できていると聞いて、すごい! と思いました。
(マーケティング・女性)



お客様と一体となった活動を推進されているのが印象的でした。
(マーケティング・男性)



私も何か参加しなくちゃ。そんな気持ちになる講演会でした。
(経営企画・女性)